

令和6年度鳥取県の「教育に関する大綱」（第二編）の評価について

1. 令和6年度大綱に掲げる指標の達成状況等

指標の達成状況は、83.3% (70/84) と、概ね成果を上げることができた。ただし、課題のある項目は依然低迷しており、引き続き改善に向けて取り組む必要がある。

<達成できた主な指標>

- ・英検準2級程度以上の英語力を有する高校生の割合
- ・英検3級程度以上の英語力を有する中学生の割合
- ・教職員の年次有給休暇取得日数（夏季休暇を含む）
- ・不登校児童生徒への支援の結果、登校する又はできるようになった児童生徒及び変容が見られるようになった児童生徒の割合（小学校）
- ・「学習した内容について分かった点やよく分からなかった点を見直し次の学習につなげることができている」児童生徒の割合（小学校・中学校）
- ・「児童生徒に対し、教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱った」学校の割合（小学校・中学校）

2. 主な課題

（1）目標を下回ったもの（C評価となったもの[目標に対して90%未満]） ※実績の（ ）は前年度数値

○県立高校の魅力化

- ・県立高校（全日制課程）の定員に対する入学者数の割合

〔目標〕全ての高校で70%を上回る 〔実績〕全日制22校中15校が達成（15校）

<今後の取組>

- ・スクール・ミッション、スクール・ポリシーに基づく魅力ある教育活動を実施する。
- ・県外生徒募集活動を推進する。
- ・大規模商業施設において出張体験入学を実施する。
- ・魅力化総括コーディネーターによる夜間の入試相談会の実施や県外におけるPR活動を行う。
- ・県立高校立地自治体との県立高校魅力化協定に基づき、住環境整備も含め、地元自治体と連携した魅力化の取組をさらに進める。

○進路指導力

- ・難関国公立大学の合格者数

〔目標〕120人 〔実績〕98人（106人）

<今後の取組>

- ・学校の枠を超えた連携を深め、教員同士が協働して教科指導力の向上につながる事業を引き続き実施する。
- ・生徒同士が切磋琢磨しながら、進路実現に向けて学習意欲を高め、学力の向上を図る事業を引き続き実施する。

○教員の英語力

- ・英検準1級以上等の英語力を有する英語科教員の割合（中学）

中学〔目標〕65% 〔実績〕40.2%（40.0%）

<今後の取組>

- ・各外部試験団体から提供されている特別受験制度や文部科学省主催のオンライン研修について、引き続き全県の教員に対しても周知し、積極的な活用を促す。

○手話学習の実施

- ・学校における手話の取組の実施率（中学）

中学〔目標〕100% 〔実績〕78.9%（85.7%）

<今後の取組>

- ・手話学習未実施の中学校等に対して、手話普及支援員派遣について打診し、手話学習の取組を促進する。

○読書が好きな高校生

- ・「読書が好きである」高校生の割合

高校〔目標〕70% 〔実績〕60.9%（61.8%）

<今後の取組>

- ・生徒の「読書」イメージを広げ、文学作品に偏らない、さまざまな情報を得る手段としての「読書」を体験できる機会を提供する。
- ・引き続き、学校司書や司書教諭を中心に、生徒の図書館活用の促進に取り組むよう働きかけるとともに、各教科での図書館活用を促す。

○鳥取県で働きたい高校生

・将来は今住んでいる地域や鳥取県で働きたい高校生の割合

高校〔目標〕60% 〔実績〕53.0% (54.1%)

<今後の取組>

- ・引き続き地域と連携した取組を継続していくことで、自分の住む地域を理解したり、地域の人々との交流を通じて、地域への理解と愛着を育む。
- ・普通科高校の生徒に、社会人・職業人としての自立を促すのと同時にふるさとへの愛着を形成するため、地域における課題解決方法の探究的な学習や地元企業見学、インターンシップ等の取組を実施する「普通科高校ふるさとまなびプロジェクト」等のさらなる実施について、学校に働きかける。

○体力・運動能力・スポーツ

・体力・運動能力調査における上位層の割合（小5の男子女子が目標値以下）

小5男〔目標〕42% 〔実績〕31.0% (36.2%)

小5女〔目標〕48% 〔実績〕35.7% (40.8%)

・小学校において、体育の授業を除く1日の運動時間が1時間以上の児童の割合

小5男〔目標〕70% 〔実績〕55.1% (63.2%)

小5女〔目標〕50% 〔実績〕30.9% (47.2%)

<今後の取組>

- ・子どもたちが継続して運動する習慣を身につけるために、「遊びの王様ランキング」の活用を啓発していく。
- ・「授業が楽しい」と感じる児童生徒を増やすために、教員の指導力向上に努める。
 - 指導主事が体育、保健体育学習の研究会へ参加し指導助言を行う。
 - 学校体育講習会、教育課程研究集会を開催する。
 - 体力向上推進計画書において、具体的な数値目標を各学校で明確に設定する。

(2) 全国学力・学習状況調査について

○学力調査の状況

・国語・算数（数学）の学力状況（C評価はなし）

〔指標〕全学年全教科で全国平均を上回る

小6国語 〔実績〕県68% 全国67.7%

小6算数 〔実績〕県63% 全国63.4%

中3国語 〔実績〕県57% 全国58.1%

中3数学 〔実績〕県50% 全国52.5%

県67%	全国67.2%
県61%	全国62.5%
県69%	全国69.8%
県50%	全国51.0%

<今後の取組>

- 鳥取県独自の「とっとり学力・学習状況調査」を県全体で実施することで、児童生徒の学力の伸びを把握し、成果と課題を明らかにするとともに、授業改善に向けてPDCAサイクルを徹底し、根拠を基にした教育施策の推進を図る。
- 各種学力調査等から得られた教育データ、学力向上検討会議における外部有識者等からの助言等を踏まえ、学力向上対策を検討し、市町村教育委員会と連携を図りながら取組を進め、全県展開を図る。
- 全国学力・学習状況調査作成に携わっている調査官等を招聘し、授業づくり研修会を実施することを通して、各学校における授業改善のさらなる徹底を図る。
- 市町村教育委員会と連携し、県指導主事が中学校数学、英語訪問を実施し、教科担当者に指導助言するなど、一緒になって授業づくりに取り組むことを通して、県内全中学校の授業改善を図る。
- 子どもが自ら学び取る力を育成するため、子どもが主体的に学ぶ授業づくりに取り組む学校を支援することで、好事例を創出し、横展開を図る。
- エキスパート教員の授業公開や授業動画の活用を通して、学習指導要領の趣旨に沿った授業づくりのモデルを示し、各学校への周知徹底を図る。
- 教員の指導力向上を図るため、エキスパート教員等によるモデル授業や研修の動画、各種資料等、授業改善についてのWebサイトのコンテンツを充実させるとともに、令和6年度に改訂した研修パッケージ等の校内研修向け教材を各学校で積極的に活用してもらうよう周知する。
- 全県で配信した活用問題集と算数単元到達度評価問題集を活用して、小学校の国語・算数の授業改善を図る。
- ICTをさらに効果的に活用した授業や児童生徒の情報活用能力の育成を図る取組等について授業公開等を通して県内に周知することで教育DXを推進する。
- 中学校の授業改善を推進するため、国語・数学・英語の中学校定期考査研修会の開催や、中学校教育振興会の教科部会との連携を深める取組を行う。